前田剛志

バンブーギター
制作の軌跡

令和７年１１月

前田剛志バンブーギター制作記念
ザビエル記念ホール展示･演奏会準備委員会

前田剛志　ザビエル記念ホール展示･演奏会　　日時：令和７年１１月２２日（土）14:00-16:00
場所：ザビエル記念ホール（福岡県宗像市名残 1056）

ごあいさつ

主催者から

師匠中山修の門下に入り１６年が経過しました。2009 年 11 月の特許取得後、何回かの内部構造の改良を行い、その度毎に加藤先生やクラシックギター愛好家の皆様の耳を借りながら、音作りを進めて参りました。これまで、３つのモデルのギターを製作しています。

①オールバンブーギター：指板と駒を除いて全てを八女市上辺春の孟宗竹の合板で作ったもの。
②バンブーハイブリッドギター：①の亜種として、表板に松系の材料を用いたもの。
③木製ギター：ハカランダ、ローズ、マホガニー、松など古典的な材料を用いたものです。

私の最終目標は、①を②や③の音響レベル迄持って行く事ですが、未だ研究の途上です。
今回は、②のバンブー・ハイブリッド・ギターを展示します。
どうぞ、展示会場、あるいは、工房にて、お手に取って各ギターの音響をお試しください。

前田剛志

2022.10.1 撮影：中園みづき

1．バンブーギターの歴史

§1 バンブーギターの足どりと現状

① 黎明期のバンブーギター

近年、クラシックギターの材料であるドイツ松や、アメリカ杉、ハカランダ、ローズ、スプルース、マホガニーなどは、原産国で減少の一途を辿っている。環境問題が厳しく叫ばれる昨今、輸出制限等の規制でこれらの材料入手が難しく、費用も高騰して日本のギター製作家が廃業に追い込まれる話も稀ではない。ギター1 台当り 20 万円～25 万円もする古典的材料ゆえ、それ以外の材料を用いてクラシックギターを製作することが模索されている。九州各地に自生するの孟宗竹から生産される竹合板材は、その豊富な供給量ゆえ、安価なクラシックギターの材料として大きな可能性を秘めている。

この様な状況の中、某楽器メーカーは、竹材片を張り合わせて木材製の構造部位を代替させたバンブーギターの特許申請を試みたが、さまざまの理由で特許化は実現していない。このバンブーギターでは、従来の弦楽器に使用する膠（にかわ）やタイトボンドをそのまま使用していたため、音響効果の低減、振動性能の低下が著しいことが知られている。膠やタイトボンドは、柔らかい木材に適した接着剤である。比較的緻密で硬い竹材片に用いると、硬化後の接着剤部分の物理的性質（弾性波速度）が竹材本体と異なるため、接着部分がダンパーとなり振動が減衰することとなる。拠って、竹合板材本来の振動性能を発揮させる事が出来なかったことが、特許化されなかった原因と推測される。

更にまた、表面板や裏板の乾燥収縮に拠る反り返りや、これに拮抗して反対方向へ接着固定する時に生じる残留ストレスも振動特性を大きく低下させる原因となっていた。

②2010 年ごろ　バンブーギター（特許ＮＯ.4414483：中山修）

中山は、前述した接着剤の問題、竹合板材の反り返りの問題、接着時の残留ストレスの問題、さらには竹材専用の塗料の問題など、バンブーギターの構造特性を根本的に見直した。そして、古典的材料を使用したクラッシックギターと比較して遜色ない、いや竹材にしか出せない音質のバンブーギターの開発に成功した。技術開発に約 8 年の歳月が流れ、平成 21 年 8 月に特許申請、平成 21 年 11 月、異例のスピードで特許化された。

③現在のバンブーギター

バンブーハイブリッドギターは演奏会での使用に耐えうる音響レベルに達した感がありますが、私のオールバンブーギターは高音域の発声が未だ目標の音響レベルに到達していません。今後残された時間を高音域の研究に費やしたいと考えています。

2．バンブーギターの特徴

八女市立花町に繁茂する大口径孟宗竹の硬質部分に弦楽器の素材としての可能性を見出したギター製作の師匠である*中山修が、18 年の歳月をかけて開発した遠達性のある演奏会用の竹製のクラシックギター、特許第 4414483 号。（なお、2020 年に特許は放棄した）

主な特徴は①弾性波速度の速い竹の硬質部分に対応した接着剤の使用。②乾燥収縮に依る竹特有の湾曲を直交異方性の合板を作成する事で解決。③竹の弾性係数大なるが故に音の遠達性大なるに加え音質の煌びやかな ること。④ナルシソイェペス氏が中山修師匠に残した遺言『ネックから音の出る ギターを造れ！』の実現がミッションのゴール。

《音色、響き》

　バンブーギターの音色は、一言でいえば、透明感のある爽やかな響きにあると思う。裏を返せば重量感のある重々しい音質ではない。そのため、叙情性が豊かな日本の歌や、ルネサンス・バロック時代のリュートが活躍していたころの曲などが、特にあうのではなかろうか。なお、バンブーギターを弾いた多くの人が感じることとして、手に取り弾きこむにしたがって鳴りが変わり、良く響くようになることがあげられる。竹は、「しなやかな材料」といわれる。大きく曲げても折れない「靱性」と、力を除くと元に戻る「弾性」が一般の木材より強いといわれる性質が、この竹独特の響きに影響しているのかもしれない。バンブーギターの音色を例えるなら、「スパークリング・ワインの響き」といえるのが相応しい。

《外観、弾き心地》

　バンブーギターは、松材より明るく白系統で、フラメンコギターで多く用いられるメイプル材に近い独特の外観を持ち、竹の持つ節や筋目が美しい。また、ネックの肌触りは、特に、滑らかで気持ちいい。

（以上、前田バンブーギター購入者の個人的な感想です：矢ヶ部輝明）

バンブーギター　アーカイブ（2016 年ごろ）

オールバンブーギターGr.　：在庫１台（20 万円）

②バンブーハイブリッド Gr.

手持ちの自信作、在庫２台

バンブーボックスに松表のハイブリッド Gr.：45 万円

②バンブーハイブリッド Gr.

バンブーボックスにラオス桧表のハイブリッド Gr.

在庫１台：30 万円

3. 展示会等への出典

1）バンブーギターフェスタ 2013 in 八女

国内のギター製作家、九州のギター演奏家が参加して福岡県八女にて、第１回バンブーギターフェスタが開催されました。前田剛志は、実行委員会代表幹事として、開催の成功に尽力しました。

ゲスト・ギタリストとしてお呼びした石橋正一氏の演奏

実行委員会挨拶をする前田剛志

2）第 58 回 2015 弦楽器フェア　バンブーギター出展 2015.10.30-11.01

本展示会はバイオリン、ギター、チェロなどの弦楽器に関する日本で最も権威のある展示会です。女性ギタリストの宮崎祥子さんを今回の試奏者として、会場で色々な製作家の音を吟味していました。

師匠中山修と高橋修一氏

宮下祥子さん来場

3）第 59 回 2016 弦楽器フェア 2016.11.4-6

4）第８回 クラシックギターフェスタ in 南港 ATC 2019.4.20-21

ギタリスト…シプリアンさん（フランス）

4. バンブーギター製作で出会った人々

ギター製作家　中山修師匠

- 出身：秋田生まれの新潟育ち
- 中学生の時にギターにあこがれ、東京でレッスン
- 大学時代に、スペインへギター留学
- 9年間、本場スペインで、巨匠ナルシソイエペスのもとで演奏技術を磨くとともに、ラミレス工房にてギター製作の修行を行う
- 日本帰国後、ギター演奏、ギター製作家として活躍
- 38歳の時にバイク事故により、ギター演奏家を断念
- 奥さんの実家大川で木工所で働く・・・・・・・

20

ギタリスト　村治佳織さん

ギタリスト　加藤優太さん

ギター製作家：故　松村雅亘さん

ギター製作家：中村通さん

中山工房の仲間

「バンブーギターフェスタ　2013　in 八女」の集合写真

立花のバンブーギター工房の前にて

バンブーギター演奏の仲間

バンブーギター・デュオ 「アルゲンテウス」

バンブーギター・デュオ 「アルゲンテウス　Ⅱ」
＊若手ギタリスト有馬信一氏を迎えて再結成

テレビ出演

TVQ 九州放送局「きらり九州」に出演

RKB・TV 「共感テレビ」に出演

5.クラシックギター界におけるバンブーギターの評価

村治佳織（ギター界の女神）

平成 21 年 10 月 20 日、鳥取の『とりぎん文化会館』において、村治佳織さんのコンサートが開催され、アンコール曲の演奏で中山のバンブーギターが使用され、『アルハンブラの思い出』が演奏された。この時、日本で初めて公式にバンブーギターが演奏会場で紹介された。『皆さん、これは竹のギターですよ！』と彼女がギターを掲げて裏板の竹の美しさを会場に紹介した。『おーっ』と言うどよめきが会場を包んだ。

平成 21 年 12 月 4 日、直方の『ユメニティーのおがた』で村治佳織さんのコンサートが開催され、アンコールに中山のバンブーギターが使用されている。この時、彼女は、その小さな手にフィットするバンブーギターの特別製作を中山に依頼している。

福田進一（ギター界の大御所）

平成 21 年 11 月、クラッシックギター界の大御所、木曽尾悦男氏の京都の自宅にて、福田進一さんが、中山修のバンブーギターを初めて弾いて発した言葉。『これは本当に日本人の作ですか？』

加藤優太（九州ギター界の貴公子）

バンブーギターは素材こそ新しいですが、ラティス構造やダブルトップ構造などの現代の最先端と呼ばれる技術で作られた楽器にはない、スペインの伝統的な、謂わばごく自然なギターらしい鳴りと歌心を持ったギターです。

韓国クラッシックギターフェスタ

平成 21 年 9 月 23 日、韓国政府の招待で『国際ギターフェスティバル』に出展。韓国のＴＶで報道された 25 日の翌日は多くのギタリストが試奏のため中山のバンブーギターの前に並んだ。

6. バンブーギターの未来

バンブーギターはその製作工程の複雑さゆえ、竹を切ってすぐギター作りを始められる訳では有りません。ヘッドはその形が切り出せる大きさの部材から、表板はその厚さと広さが切り出せる部材から切削により整形されます。依って、バンブーギターでは、円形断面の竹材からギター各部に使用される「部材」を合板と言う形で作る事が必要で、これに相当な時間を費やす事になります。又、竹の切り出しには多大な労力を要し一本切り出すのに大人 4、5 人が必要で、ギター1 本に直径 18cm の孟宗竹が 3～4 本必要です。

今後、バンブーギターの製作技術が存続する為には、①竹材の定期的な入手方法②合板製作技術の若手への継承③門下生が共同で使用できる大型機械類の収納場所などの課題解決が必要です。竹と言う日本を代表する素材に着眼し、師匠中山修が 20 数年の歳月を掛けて完成させたこの技術を何とかして後世に引き継ぎたいと思っております。そしてバンブーギターが日本を代表するクラッシックギターとして世界で通用する時が来る…そんな事を夢見ております。

7. 前田バンブーギター工房　HP 紹介

バンブーギターの魅力を発信すべく、「六弦精舎（前田バンブーギター工房）」の HP を立ち上げています。（URL：https://www.bambooguitar.net/ ）

8. 製作シーン·工房風景

2022.10.1 撮影：中園みづき

治具造りが大変…後方右手の亀型は表板を貼る治具…2 台分製作に 1 ヶ月程度. .

ギター製作を通して自己実現を果したい…祇園精舎に因んで…福岡市西区小戸 4-5-3 の 205 号室

側板（竹の合板）は型板に固定して 2~3 年乾燥させないと使い物にならない。

作業台は部材を外部で製作し､室内で組み立てた物…もう部屋から出せない。

前田剛志　バンブーギター関連史

2009：師匠中山修の門下に入りバンブーギターの製作を学びはじめる。その年に師匠の承諾を得て特許申請、異例のスピードで同年 11 月に取得。NO.4414483

2011：福岡市西区小戸にギター工房「六弦精舎」を設立。

2013：福岡県八女市にて「バンブーギターフェスタ 2013」を開催、全国から多くのプロギター製作家が出展。矢ヶ部輝明氏と「Duo Argenteus」を結成し、演奏活動遊びを開始。

2014：中山バンブーギター製作講座会長を退任し、ギター製作と内部構造の研究に専念。

2015：「第 58 回 2015 弦楽器フェア」師匠のバンブーギター出展に同行。

2017：「第 59 回 2016 弦楽器フェア」師匠のバンブーギター出展に同行、シュトラディバリウスモデルの巨匠 StefanoConia 氏とギター製作家 PaoloCoriani 氏の助言を受けて、駒下部とサウンドホール横の剛性バランスの重要性に目覚める。

2019：「第 8 回クラシックギターフェスタ in 南港 ATC」に出展。

2021：特許権を放棄し、日本のギター製作家に広くバンブーギター製作の門戸を開放。

2022：13 年間のギター製作活動を世に問うべく「第１回　前田剛志　バンブーギター展示・演奏会」を開催。

2023：ザビエル記念ホールにて、「第２回　前田剛志バンブーギター展示・演奏会」を開催

2024：糸島市「東風音楽祭」に、バンブーギターデュオ「アルゲンテウス」が出演し、バンブーギターの紹介をする

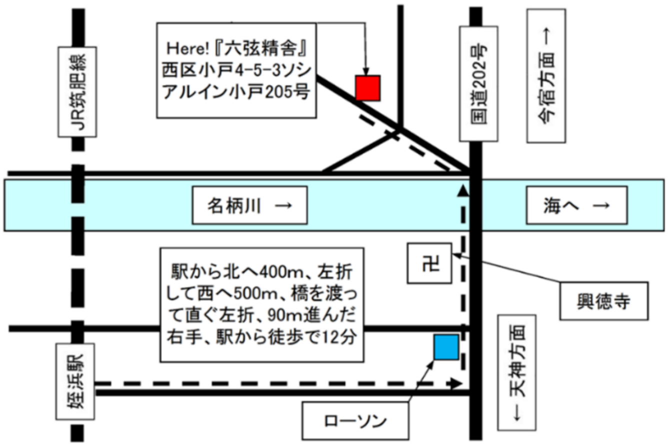
2024：ザビエル記念ホールにて、「第３回　前田剛志バンブーギター展示・演奏会」を開催

2025：ザビエル記念ホールにて、「第 4 回 前田剛志バンブーギター展示・演奏会」を開催

2026：「第 5 回 前田剛志バンブーギター展示・演奏会」を開催予定(2026.2.1 マジョルカホール)

これまでの人生を支えてくれた奥様とのアンサンブル

（加藤優太ギター教室発表会にて）



前田 剛志（まえだ ごうし）　福岡県福岡市

2009年1月：中山修の門下生となる。
2009年8月：中山修発明のバンブーギターを特許申請し特許取得（N04414483）、特許権者。
2010年10月：福岡市西区に構造研究のための六弦精舎を設立。
2013年9月：八女市にて九州初となるクラシックギター展示会を開催、東京、大阪方面から多数の製作家参加。

2025 年現在: 工房六弦精舎にて、ギター製作に邁進中